



LSM-VIA | バージョン 1.12.28

リリースノート

2026年7月

著者| PAILLOT、ジュリアン 電子メール| j.paillot@evs.com – s.quintana@evs.com

コンテンツ法的通

知..... 2

警告 4

新機能..... 4

バグ修正..... 6

既知の問題と制限事項 8

 問題点..... 8

 制限事項 10

互換性..... 14

 ソフトウェア 14

 ハードウェア 14

展開..... 14





法的通知

本製品はEVS Broadcast Equipment SAまたはEVSグループのその他の関連会社（以下「EVS」）によって提供され、EVSソフトウェアライセンス契約（https://evs.com/sites/default/files/2021-04/Software_License_Agreement.pdfで入手可能）が適用されますのでご注意ください。またはご希望に応じて適用される追加規約やポリシーとともに。

本製品をインストール、複製、またはその他の方法で使用するにより、お客様は上記の条件に拘束されることに同意するものとします。

免責事項

本リリースノートおよび本リリースノートに含まれる情報は、EVS Broadcast Equipment SAおよび／またはその関連会社（以下「EVS」）の独占的な財産であり、明示的または黙示的な保証（商品性および特定目的への適合性に関する黙示の保証を含むが、これらに限定されない）なしに「現状のまま」提供されます。特に、EVSは、本リリースノートおよび本リリースノートに含まれる情報の使用または使用の結果に関して、いかなる保証も行いません。さらに、EVSは、本リリースノートおよび本リリースノートに含まれる情報の通常または異常な使用から生じる、いかなる種類の直接的または間接的、偶発的、懲罰的または結果的な損失、損害、費用または支出についても、たとえそのような損失、損害、費用または支出の可能性を知らされていたとしても、一切責任を負いません。

本リリースノートに記載されている情報は、正確性、最新性、信頼性を確保するためにあらゆる努力を払っておりますが、EVSは本資料に記載されている不正確な情報や誤りについて一切責任を負いません。本リリースノートの情報は、情報提供のみを目的としており、予告なく変更される場合があります。

このリリースノートは、以前のすべてのバージョンを無効にし、置き換えるものです。

著作権

著作権 © 2003-2021 EVS Broadcast Equipment SA. 全著作権所有。

本リリースノートは、EVSの事前の書面による同意なしに、全体または一部を複製、転記、保存（データベースまたは検索システムへの保存）、いかなる言語、コンピュータ言語への翻訳、電子的、機械的、印刷、複写、光学的、手動その他いかなる形式または手段によっても送信することはできません。

商標

すべての製品名およびブランド名は、EVSまたはそれぞれの所有者の登録商標または商標です。

改善要望

皆様からのご意見は、ドキュメントの品質向上に役立ちます。改善のご要望、または本リリースノートにおける誤りや不正確な点のご報告は、担当プロダクトオーナー（トップページに記載されているメールアドレスを参照）までメールにてお送りください。



地域連絡先

住所と電話番号の全リストは、次のウェブページに掲載されています：<http://www.evs.com/contact>。

EVSウェブサイトのリリースノート

最新版のリリースノート（存在する場合）およびEVS製品に関するその他のリリースノートは、EVSダウンロードセンターの次のウェブページ（<https://docs.evs.com/>）で入手できます。



警告

LSM-VIA 1.12にアップグレードする際は、Rocky Linux 9.7にアップグレードすることを強くお勧めします。

アップグレードは「オフラインモード」（インターネット接続なし）で実行でき、完全な再ゴースト化は必要ありません。
システムについて：

LSM-VIAインストーラーから、「オペレーティングシステムとLSM-VIAのアップグレード」の手順を参照してください。

LSM-VIAインストールガイド

o 中央インストーラーから、「複数のワークステーションへの LSM-VIA の展開 -
「集中展開」手順

Rocky Linuxへのオフラインアップグレードは、「evs」ユーザーから実行する必要があります。

> ドライバの 互換性やその他の予期せぬ問題など、アップグレードの失敗につながる可能性のある潜在的な問題があるため、現在、オンラインでのオペレーティングシステムのアップグレードはサポートされていません (LSMVIA-16483)。

> -VIA 1.12 はまだ Rocky Linux 9.8 と互換性がありません。

システムの安定性と最適な応答性を確保するため、常に運用手順を遵守してください。

EVSが自社製品に関して公式に発表したシステム互換性ガイドライン。

新機能

IN 1.12.26

LSM-VIA MultiViewerのオーディオモニタリング機能では、カスタムオーディオプリセットを定義できます。

プロダクションネットワーク全体のオーディオソースを使用できますが、カスタムオーディオプリセットは依然として2つのオーディオトラック（左と右）に制限されています。

リモートプロダクションでLSM-VIA MultiViewerストリーム レイ3ネットワーク経由で伝送するために使用されるマルチキャスト-ユニキャストゲートウェイは、「LSM-VIAゲートウェイ」に名称変更されました。LSM-VIA設定に、エンジニアがゲートウェイの伝送プロトコル（Websocket（TCP）またはSRT（UDP））を定義できるパラメータが追加されました。

Search-TC ユーザーが定義した日付範囲（開始日／終了日）で使用できます。LSM-VIA Remoteの物理キーを使用して、「Search-TC設定」機能でSearch-TCオプションを定義できます。

> マルチPGMでは、プレイリストを使用した条件付きモードで動作させる場合、すべてのプレーヤーを同時に制御して、複数のプレイリストで同時に同期再生をトリガーすることができます。

アクティブなキーワードファイルは、専用のボタンを使用してキーワードファイルエディタですばやく開くことができます。

LSM-VIA Viewerインターフェース、またはキーボードショートカットのF6を使用します。

オーディオ スワップ キーフレーム周辺のオーディオ トランジションの継続時間は、LSM-VIA Remote パネルの「A. Fx Dur」機能を使用して編集できます。

> マルチPGMでは、オペレーターに割り当てられたプレーヤーチャンネルを、LSM-VIAリモートショートカットボタンに個別にマッピングできます。プレーヤーチャンネルがこのようなショートカットで制御されている場合、「テイク」ボタンを押す必要なく、リモートパネルのABCDEボタンにローカルCAMが自動的に割り当てられます。

オペレーターがPGM1以外の単一のプレーヤー チャンネルを制御しているときに「ラスト マーク」をトリガーすると、呼び出されるマーク ポイントは、オペレーターがマーク ポイントを定義した時点で制御されている最小のプレーヤーにロードされていた CAM になります。

1938年1月11日

オーディオ分割をプレイリストで使用する場合、デフォルトの「センターカット」動作に加えて、「カット開始」トランジションを使用してプレイリスト項目を挿入できます。このプレイリスト動作は、LSM-VIA構成の「分割トランジションの拡張」パラメータで定義されます。この機能を利用するには、EVSサーバーをMulticam 21.2.37以上にアップグレードする必要があります。

IN 1.11.27

LSM-VIAオーディオ/ビデオ監視インターフェースは、本格的なマルチビューアツールとなり、オペレーターに割り当てられたローカルプレーヤーチャンネル、オペレーターOSD、およびオーディオ監視を含むようになりました。

LSM-VIA MultiViewerは、レイヤー3ネットワークを介したリモートプロダクションで使用できます。

マルチキャストからユニキャストへのゲートウェイソリューションの導入。



Cerebrumとの連携は、LSM-VIAリモートパネルのショートカットボタンにマッピングできる「クイックアクション」にまで拡張されています。これらのショートカットは、Cerebrum側で定義された長押しワークフローをサポートし、インターコムシステムと組み合わせることで「プッシュトゥトーク」のユースケースを実現します。

ハードカットのオーディオトランジションは、プレイリストの「カットを追加」機能を使用する際に定義できます。ハードカットトランジションは、プレイリストアイテム間のトランジション効果を編集する際にも利用可能です。

- > Add CUT機能で適用されるデフォルトのトランジションは、同じ期間のミックス効果にすることもできます。LSM-VIAの設定で定義されている「デフォルトの効果持続時間」に合わせます。
- > -VIA設定ツールはHTTPからHTTPSに移行され、ログインが必要になりました。LSM-VIAの設定ユーザーは常に「admin」であり、変更できません。「admin」ユーザーのパスワードは、接続後に更新できます。

キーボードショートカットはLSM-VIA Viewerアプリケーションに記載されており、「ヘルプ」メニュー。



バグ修正

IN 1.12.28

- > Cerebrumへの接続が不可能です (LSMVIA-18016)。

IN 1.12.26

- > オペレーターがクリップを削除した後にすぐに名前を変更したり移動しようとする、LSM-VIA が予期せず停止することがありました (LSMVIA-16919 および LSMVIA-16928)。

オペレーターが 2 台の LSM-VIA リモートを使用して同じプレイリストを編集する場合 (たとえば、大規模イベント中の「クリップコンパイル」ユースケースの「再生中の編集」ワークフロー)、プレイリストが同時に別 LSM-VIA ワークステーションから変更された (アイテムの削除、マージ、アイテムの移動) ため、プレイリスト編集コマンドが実行できなくなり、一方の LSM-VIA ワークステーションが予期せず停止する可能性があります。
(LSMVIA-17771)

- > LSM-VIA は、アプリケーションを閉じるときに予期せず停止することがあります (LSMVIA-17160)。

LSM-VIA リモコンは、認識されない USB デバイスを接続すると、予期せず停止することがあります。
リモートパネル (LSMVIA-17461)。

LSM-VIA をマルチレビューモードで使用し、この機能の不具合によりオペレーターがアプリケーションを終了せざるを得なかった場合、その後 LSM-VIA を起動できなくなることがありました (LSMVIA-17281)。

ハードディスクがログとコアダンプでいっぱいになると、XClient-VIA ユニットが起動できなくなる問題がありました。コアダンプ生成メカニズムを改善し、既存ファイルのクリーンアップを最適化して、XClient-VIA のハードディスクがいっぱいになるのを防ぎました
(LSMVIA-17228)。

設定ファイルが含まれていない構成ファイルをインポートした後、LSM-VIA アプリケーションが起動しなくなりました。

キーワードファイルパス (LSMVIA-17499 および LSMVIA-17476)。

LSM-VIA ライセンスがリリースできなくなったため、LSM-VIA アプリケーションが起動できない場合がありました (LSMVIA-17611 および LSMVIA-17235)。

- > -VIA アプリケーションは、サポートされているビデオタイトルの最大数 (48) を超える新しいマルチビューワーワークスペースを開いた際に、クラッシュすることがありました。このような場合、設定された制限を超えるビデオタイトルが急速に作成されて閉じられるため、アプリケーションがクラッシュする可能性があります。この問題は解決されました (LSMVIA-17950)。

LSM-VIA は、接続性をチェックするサブルーチンが原因で、予期せずフリーズすることがあります。

LSM-VIA ワークステーションおよび EVS サーバー (LSMVIA-17473)。

オペレーターが LSM-VIA リモートを LSM-VIA ワークステーションに効果的に接続するには、2 回の試行が必要になる場合がありました (リモートウェルカム画面から) (LSMVIA-17578)。

ネットワークレコーダーのマルチカム構成でレコーダー名 変更した場合、LSM-VIA インターフェースで新しい名前が自動的に反映されないことがありました。この問題は、セットアップに XFile3 ユニットが展開されている場合に多く発生しました (LSMVIA-17133)。

- > -VIA をデフォルトのクリップ期間なしで構成し、「クリップ作成境界」パラメータを「CAM ごとに柔軟」に設定した場合、オペレーターが特定の CAM 上でのみ IN または OUT 境界を定義していると、LSM-VIA はクリップの作成を妨げていました。LSM-VIA 1.12 では、有効なクリップ角度は適切に作成され、無効なクリップ角度は破棄されるため、クリップの作成は失敗しなくなりました (LSMVIA-17177)。

- > ギガビットネットワーク経由で XFile3 から復元されたクリップが、LSM-VIA インターフェース内で際限なく増え続けることがあった (LSMVIA-17374)。

クリップをループ再生する際、LSM-VIA MultiViewer アプリケーションに表示される残り時間 OSD が正しくありませんでした。ただし、クリップループ再生自体は正常に動作し、サーバー MultiViewer の OSD は正しく表示されていました (LSMVIA-17022)。

最初のプレイリスト項目の TC IN にオーディオスワップが定義され、そのプレイリスト VIA-Xsquare でフラット化された場合、結果として得られるクリップの冒頭にクリーンなオーディオが含まれていませんでした。
(LSMVIA-17502)

LSM-VIA Gateway ソリューションを介してリモート プロダクションで LSM-VIA MultiViewer を使用している場合、ユーザーがごく最近作成されたものも含め、すべての MultiViewer ワークスペースを閉じてから、すぐに新しいレイアウトを選択して別のワークスペースを開くと、LSM-VIA アプリケーションが予期せず停止することがありました (LSMVIA-17059 および LSMVIA-17309)。



マルチレビュー モードを使用し、40 ストリーム以上をビデオ インターフェイスにマッピングし、同時に VIA-Search を使用すると、オペレータの検索インターフェイスで動作が遅くなる問題が発生する場合があります。これは特に、XClient-VIA (1.0) の最も古いモデルに影響します (LSMVIA-16225)。 起動時に EVS サーバーが利用できない場合、VIA-Search サービスが正しく初期化されないことがあります。このような場合、EVS サーバーが完全に起動して利用可能になっても、VIA-Search 機能が利用できない場合があります。この問題は通常、LSM-VIA の起動時に EVS サーバー サービスが無効になっているか、まだ起動していない場合に発生します (LSMVIA-16481)。

- > LSM-VIA ViewerアプリケーションのVIA-Searchインターフェイスにおいて、オペレーターがキーワードで結果を並べ替えた場合（キーワード列をクリックした場合）、結果リストが空になるという問題が発生しました (LSMVIA-16871およびLSMVIA-17040)。
- > LSM-VIAワークステーション上のDNSサーバーの設定が正しくない場合、ライセンスサービスに関連して、LSM-VIAの起動時に大きな遅延が発生する可能性があります。この問題は、ワークステーション上でLSM-VIAが起動しない原因にもなります。この問題を回避するため、LSM-VIAにはDNSチェック機能が組み込まれており、問題発生時には起動時に専用のエラーフィードバックが表示されます (LSMVIA-16013)。

IN 1.11.40

- 割り当てられたプレーヤーチャンネル間でコンテンツを したり、LSM-VIA リモートパネルのSyncTo / SyncPRVを使用して割り当てられたプレーヤーにロードされたコンテンツのタイムコードを同期したりすると、LSM-VIAアプリケーションの遅延やフリーズが発生することがあります (LSMVIA-17541およびLSMVIA-17471)。
- > ネットワークEVSサーバーに保存されているクリップをLSM-VIAリモートパネルからVIA-Xsquareターゲットにエクスポートすることができなくなりました。オペレーターはローカルクリップ (LSMVIA-17554およびLSMVIA-17448)のみをエクスポートできるようになりました。

1938年1月11日

- 再生リスト項目にオーディオスワップのキーフレームを追加すると、LSM-VIAアプリケーションが停止することがありました。予期せず、その後LSM-VIA リモートをワークステーションに接続できなくなりました。このバグ修正には、EVSサーバー上のMulticamを少なくとも21.2.37にアップグレードする必要があります。(LSMVIA-17257)
- オーディオスワップ機能を使用してプレイリストアイテムのすべてのオーディオトラックをミュートし、その後オーディオスワップキーフレームの最初のオーディオトラックのミュートを解除すると、キーフレームにリンクされているすべてのオーディオトラックが自動的にミュート解除されました。このバグ修正には、EVSサーバー上でMulticam 21.2.37以降へのアップグレードも必要です (LSMVIA-17167)。
- > IPDirectorにおいて、LSM-VIAオペレーターが使用するプレイリストの2つのプレイリスト項目間の遷移として、オーディオミックスが0フレームのビデオカットを定義した場合、LSM-VIAがそのようなプレイリストを操作する際に誤動作を起こすことがありました。LSM-VIAオペレーターが問題のある動作を解決するためにLSM-VIAを再起動しようとすると、LSM-VIAは正常に再起動できませんでした (LSMVIA-17456およびLSMVIA-17266)。
 - > 「Go to IN」および/または「Go to OUT」ショートカットをLSM-VIAリモコンにマッピングすると、特にプレイリストの読み込み、プレイリスト内のブラウジング、またはLIVEに戻る際に、LSM-VIAリモコンの応答性が低下するという問題が発生しました (LSMVIA-17457およびLSMVIA-17272)。

IN 1.11.28

- LSM-VIAをSWサーバーに接続し、Zoomアプリケーションと組み合わせて使用した場合、LSM-VIAの応答性が時間とともに予期せず低下し、アプリケーション障害が発生することがありました (LSMVIA-17107およびLSMVIA-17124)。
- 連続するプレイリスト項目に同じオーディオスワップが定義され、そのプレイリストがVIA-Xsquareによってフラット化された場合、結果として得られるクリップでは、プレイリスト項目間の遷移点でクリーンなオーディオがありませんでした (LSMVIA-16796およびLSMVIA-17126)。
- > LSM-VIA ライセンスは、中央集中型の VIA-Licensing Manager (LSMVIA-17135)。
 - > リモートプロダクションで使用するマルチキャストユニキャストゲートウェイアプリケーションにおいて、メモリ管理に関するいくつかの改善が導入され、ソリューション全体の応答性と堅牢性がさらに向上しました (ZN-915)。



既知の問題点と制限事項

問題

大規模な制作ネットワークでは、プレイリストの読み込みと編集が時々応答なくなることがあります。

ネットワーク上で多数のクリップが作成されている場合 (LSMVIA-17864)。

- SLSM クリップの速度がプレイリスト内で不明に設定されている場合、プレイリストの残り時間が正しくなくなる可能性があります (LSMVIA-11666)。

LSM-VIAリモートパネルからプレイリストアイテムの速度または効果の持続時間に対して「すべて編集」を使用すると、

実際の値のスムーズな表示は、すべてのプレイリストインターフェースで行われるわけではありません (LSMVIA-9217)。

- プレイリスト再生モードでは、スキップ機能と次へ機能は最後のプレイリスト項目では動作しません。最後のプレイリスト項目は常にサーバーによって再生されます (LSMVIA-15377)。
- VIA-Xsquare を介してプレイリストをフラット化すると、プレイリストにオペレーターによってタイムコードが再ストライピングされたクリップが含まれている場合、「VideoTarget が空です」というエラーが発生して失敗することがあります (LSMVIA-17857)。

LSM-VIAリモートパネルからプレイリストを2回連続でコピーすると、2回目のコピーは考慮されず、代わりに新しいプレイリストがアクティブとして選択されます。この2回目のコピーをするには、オペレーターは「新規PL」オプションに切り替えてから、ポップアップダイアログの左下にある「PLのコピー」を選択できます (LSMVIA-17924)。

クリップの角度が削除、同じタイミングでギガビットネットワークを介して別のクリップが復元された場合

場所によっては、LSM-VIAインターフェース (LSMVIA-17024)に表示されない場合があります。

クリップがループ再生されているときに、オペレーターが2番目のループ中に再び「再生」を押すと、クリップループはクリップのガードバンドを再生します (LSMVIA-11622)。

オペレーターがクリップを素早く連続してロードして再生すると、クリップが断続的にショートアウト境界を超えてガードバンド内に再生されることがあります。この問題は、LSM-VIA Shotbox (LSMVIA-17057) の自動再生機能で再現できます。

- オペレーターがロードされたクリップ角度の Short-IN を再定義し、その後すぐにクリップを再ロードすると、LSM-VIA が更新された Short-IN ではなく、以前の Short-IN に着地することがあります (LSMVIA-13868)。

複数のプレーヤーを制御している場合、オペレーターがリモートパネルからすべてのマークポイントをクリアすると、XT Server マルチビューワー OSD に表示される「メッ」は表示されたすべてのクリア点数: キャンセル/確認 セージは、制御対象の最小プレーヤーからは正しくクリアされますが、他の制御対象プレーヤーにままになります。メッセージを完全にクリアするには、ユーザーは読み込まれたコンテンツを参照し、LIVE に移動する必要があります (LSMVIA-16364)。

オペレーターがクリップを作成するためにIN/OUTポイントをマークすると、XT Server MultiViewer OSDに定義されたIN/OUTポイントが表示されない場合があります。ただし、クリップは正しい境界で適切に作成されます (LSMVIA-17921)。

- LSM-VIAからローカルXTサーバーの録画プロセスを停止できない場合があります (LSMVIA-15697)。
- LSM-VIA Remote の E/E キーを押すと、ローカル EVS サーバーの記録プロセスが常に再開されます。たとえマルチカム「録画キー」パラメータが停止状態を維持するように設定されていても。
- LSM-VIA検索インターフェースで列順序を変更すると、列ヘッダーのみが移動し、関連データは元の位置のままになります。そのため、一部の列では、ヘッダーに対応しない情報が表示される場合があります。回避策として、影響を受ける列のヘッダーをクリックして内容を並べ替えることができます。これによりインターフェースが更新され、列ヘッダーと関連データ間の正しい位置合わせが復元されます (LSMVIA-17962)。
- SLSMクリップの場合、VIA検索インターフェースでTC IN、TC OUT、およびdurationフィールドに誤った情報が表示されます (LSMVIA-17870)。
- オペレーターがライブ配信日とは異なる日付でレコーダーをロードした場合、LSM-VIA MultiViewer OSDに表示されるライブ配信までの遅延が正しく表示されません (LSMVIA-17232)。

マルチPGMで2人以上のプレーヤーがプレイしている場合、および「Vスプリット」制御モードが有効になっている場合、

LSM-VIA MultiViewerの第3PGMのOSDが正しく表示されなくなります (LSMVIA-17783)。

LSM-VIAのマルチレビュー機能が有効になっている場合、LSM-VIAアプリケーションが予期せず終了すると、オペレーターは最大5分間LSM-VIAを再起動できない場合があります。このような場合、ライセンスサービスはマルチレビューライセンスを適切に解放できず、ユーザーは5分間のタイムアウトが終了するまで待つ必要があります。

リモートプロダクションで LSM-VIA MultiViewer の MultiReview モードを使用する場合 (

LSM-VIAゲートウェイ)レイアウトにマッピングされたレコーダーチャンネルはローカルキャッシュに取り込まれません。



LSM-VIA アプリケーションが実行されていない場合、ユーザーがアプリケーションを閉じるときに「取り込みを保持」オプションを選択した場合でも、取り込まれたデータは保持されません (LSMVIA-17762)。

- > EVSサーバーのマルチカム構成でマルチキャストストリームの構成が更新された場合
(例えば、手動モードでマルチキャストアドレスを変更するなど)操作者は、LSM-VIAマルチビューインターフェースの動作が劣化する現象を経験するでしょう。このような場合は、LSM-VIAアプリケーションを再起動する必要があります。
さらに、このような設定変更はマルチレビューモードの動作にも影響を与えます。オペレーターは、マルチキャスト設定変更前に取り込まれたレコーダーを参照できなくなります (MV-89)。
- > オフラインの Rocky Linux OS アップグレードは、デフォルトの EVS ユーザー アカウントが削除されている場合、失敗します。
例えば、Active Directoryドメインがセットアップに展開された場合に発生します。
回避策として、アップグレードを開始する前にデフォルトのEVSユーザーを再作成するか、ISOを使用してシステムをリゴーストするか、OSアップグレードをスキップしてLSM-VIAアップグレードのみを実行する方法があります (LSMVIA-16562)。
LSM-VIAインストーラーを使用して最新のRocky/バージョンにオフラインOSアップグレードを実行すると、LSM-VIAワークステーション (XClient-VIA)に以前インストールされていたすべての外部アプリケーションがアップグレード中に削除されます。この処理後、LSM-VIA ISOパッケージに含まれるアプリケーションのみがインストールされたままになります (LSMVIA-17070)。

制限事項

- LSM-VIAは、マルチオペレーター構成においてプレーヤーチャンネルのロック機構をサポートしていません。このような構成では、複数のオペレーターが同じプレーヤーチャンネルを制御しないように細心の注意を払う必要があります。この制限により、製品が予期しない動作を起こす可能性があります（例えば、オペレーターが同じチャンネルで異なるプレイリストを読み込んで再生する場合など）（LSMVIA-5743）。
- LSM-VIAアプリケーションの実行中に、マルチカムVGA画面からクリップやプレイリストを操作することはサポートされていません。EVSサーバーとLSM-VIA間のデータベースの同期がずれる可能性があり、その結果、LSM-VIAビューアがサーバーコンテンツを正しく表示しなくなる場合があります。
- 操作負荷が高い場合、オペレーターはクリップ作成ワークフローで若干の遅延を経験する可能性があります（クリップがビューアにゆっくりと表示され、Fキーがゆっくりとハイライトされます）（LSMVIA-2538）。
- アクティブなプレイリストに多数の要素が含まれている場合、またはXTサーバーに多数のクリップが含まれている場合、LSM-VIA リモート パネルの起動または再接続に時間がかかる場合があります（LSMVIA -1871 および LSMVIA -1766）。
- オペレーターは、大規模なプレイリストで「すべて編集」コマンドを繰り返し使用すると、リモートで動作が遅くなる問題が発生する可能性があります（LSMVIA-6169）。
- 「INIに切り替える」はデフォルトで常に有効になっています。ただし、現在の実装ではクリップのみに対応しています。保留中のIN/OUTポイントを持つレコードトレインが制御チャンネルにロードされている場合、「INへの切り替え」が正しく処理されません。
- LSM-VIAを使用すると、オペレーターはプレーヤーをロードされた遠隔のレコードトレインと同期できますが、プレイアウト。
- 「Take」でサポートされているエフェクト遷移はMixのみで、その他のTAKE遷移はまだサポートされていません。ビューアから複数のクリップを選択してコピーまたは移動する機能は、現時点ではサポートされていません。
- 特定のXT-VIAサーバー上で移動中のクリップは、LSM-VIAショットボックスから削除されます。
- クリップの移動中は、オペレーターはLSM-VIAリモートFキーやLSM-VIAビューアでフィードバックを受け取ることができません。移動操作が完了すると、LSM-VIAから通知が表示されます。
- ビューアからのメタデータ編集機能はまだ利用できません。
- 「TCへ移動」および「TCを検索」の「ユーザーTC」オプションはまだサポートされていません。
- 「TCへ移動」の「開始日/終了日」オプションはまだサポートされていません。
- オペレーターが「Go to TC」機能を使用して特定のタイムコードにジャンプし、すぐにその後CAMをロードすると、制御対象のプレイヤーがユーザー定義のタイムコードにとどまらず、LIVEに戻ってしまうことがあります（LSMVIA-10284）。
- マークでフリーズ」が有効になっている場合、オペレーターが制御対象のプレーヤーにマークポイントをロードすると、E/E機能と再生機能が最初のボタン操作で動作しないことがあります。は、EVSサーバーでコマンドをトリガーするために、E/Eボタンまたは再生ボタンをもう一度押す必要があります（LSMVIA-15289）。
- VIA-Search の展開設定を「ローカル」に設定して LSM-VIA アプリケーションを起動すると、VIA-Search サービスはアプリケーションと同時に起動されます。これらのサービスが起動して実行状態になるまでには 30〜40 秒ほどかかるため、LSM-VIA の起動直後にオペレーターが検索インターフェースにアクセスすると、数秒間インターフェースを正しく使用できず、その間にいくつかの通知が表示されることがあります。 LSM-VIA Viewer の検索パネルインターフェースの自動更新の最小値は 5 秒です。 おっと何かうまくいきませんでした
- そのため、検索結果のクリップに対して行われた更新（移動、削除、キーワードの編集など）が画面に表示されるまで、最大5秒かかる場合があります。
- LSM-VIA Viewer の -Search UI では、クリップの作成方法によっては、作成日情報が表示されない場合があります。LSM-VIA から作成されたクリップについては、この情報は正しく表示されます。しかし、クリップが Gbe 経由で送信された場合などは、この情報は表示されません（LSMVIA-9609）。
- デフォルトでは、「alt gr」キーではサーバーのページとバンク内をナビゲートすることはできません。LSM-VIA Viewer アプリケーションでのキーボード ショートカットについて説明します。「alt gr」キーをこの目的で使用するには、Rocky Linux の「代替文字キー」設定を別の未使用キーにマッピングする必要があります。この変更を行うと、「alt gr」キーでキーボードから特殊文字にアクセスできなくなることに注意してください（LSMVIA-16449）。
- オーディオ分割では、オペレーターはオーディオ/ビデオトラックに対して意味のないトランジション期間（たとえば、前後のプレイリスト項目よりも長いトランジション）を定義しようとすると、エラー通知を受け取ります（LSMVIA-5354）。
- プレイリスト内のトランジションエフェクトのビデオトラックとオーディオトラックの再生時間が異なる場合、オペレーターがLSM-VIAの「Fx. Dur」機能を使用して両方の再生時間を同時に編集しようとすると、



- リモートパネルの場合、ビデオとオーディオのトランジション期間に1フレームの差が生じることがありますが、本来は同じであるべきです (LSMVIA-7584 およびLSMVIA-16752)。
- オーディオ分割で再生できないプレイリスト遷移を克服するために実装されたリセットメカニズムは表示されません
実際にリセットが行われた場合、オペレーターに警告通知が送信されます。
- アイテム間にオーディオ分割を含むプレイリストを再生中に、オペレーターがレバーを使用して再生を停止した場合、LSM-VIA インターフェースに表示されるプレイリストの残り時間はすぐに停止せず、5 秒間継続してから正しい値に戻ります (LSMVIA-16713)。
- プレイリスト項目にオーディオ スワップ キーフレームが含まれている場合、オペレーターが定義されたオーディオ スワップ キーフレームの前にプレイリスト項目の OUT 境界を再定義すると、キーフレームはプレイリスト項目から削除され、オペレーターが後でプレイリスト項目に対して CLEAR+OUT を使用しても復元されません。
- プレイリストの「元に戻す」機能を使用すると、LSM-VIA リモート画面に表示されるプレイリストインターフェースが、アクティブなアイテムに素早く戻るために、一時的に最後のプレイリストアイテムにジャンプすることがあります。プレイリストアイテムを「削除」した後に「元に戻す」を使用すると、プレイリストインターフェースが、以前にアクティブだったプレイリストアイテムとは異なるプレイリストアイテムに戻る場合があります (LSMVIA-15721)。
- プレイリスト編集モードで「ローカル作成」機能を使用すると、サーバー側でクリップ作成プロセスが開始されるとすぐに、ネットワークプレイリストのアイテムがローカルコピーに自動的に置き換えられます。
プレイリストがすぐに再生されると、サーバーはクリップを次々と再生し、コンテンツがまだ利用できない場合は再生がフリーズする可能性があります。このような問題をできるだけ回避するには、EVSサーバーの「ネットワークコピー/プッシュ」パラメータを「Gigabit」ではなく「XNet」に設定してください。ローカルにコピーされるネットワーククリップに大きなガードバンドを設けないことも有効です (LSMVIA-16514)。
- プレイリスト再生モードのスキップ&ネクスト機能は、プレイリストにオーディオ分割を含むトランジションが含まれており、かつプレイリスト内のトランジションの長さがすべて同じでない場合、正しく動作しません。トランジションの 長さが異なるプレイリスト項目に移動しようとする、XTサーバーによってスキップ&ネクストコマンドが拒否されます。
オーディオ分割機能 (LSMVIA-16119)も搭載。
- オーディオ分割トランジションを含むプレイリストが再生されたとき (ビデオカット + オーディオミックス)、次のこの機能により、ビデオの切り替えが早期に開始されます (LSMVIA-17265)。
- ループ再生でプレイリストを再生しようとする、プレイリストにカットトランジションを持つ単一のプレイリストアイテムが含まれている場合、または再生モードでプレイリストが読み込まれたときに再生コマンドがトリガーされた場合、正しく動作しません。
さらに、このような状況で表示される残り時間は正しくありません (LSMVIA-12924およびLSMVIA-12332)。
- プレイリストがループ再生されているときに、オペレーターが最後のプレイリストでループを無効にしようとした場合
アイテムの場合、再生は継続され、プレイリストがもう一度再生されます (LSMVIA-9528)。
- プレイリストをループ再生している場合、最後のプレイリスト項目では「次へ」コマンドは機能しません。
- クリップまたはプレイリストを再生中にループとポストロールが同時に有効になっている場合、ポストロールは期間は無視されます (LSMVIA-7583)。
- > LSM-VIAをVIA-Xsquare 4.15以前のバージョンで使用する場合、以下の内容を含むプレイリストのフラット化はサポートされていません。
速度が300%を超えるアイテム。この制限はVIA-Xsquare 4.16で解除されました。
 - > のプレイリストをネットワーク上の別のサーバーにコピーすることは、現時点ではサポートされていません。
 - > リモートパネル画面に複数のプレイリストを並べて表示する機能は、現時点ではサポートされていません。
 - > LSM-VIA 設定でオペレーターに割り当てられているサーバープレーヤーによっては、オペレーターが常時モードでプレイリストをロードできない場合があります (条件付きモードは常に機能します)。常時モードでプレイリストをロードできるのは、PGM1&2、PGM3&4、または PGM5&6 のみです。その他のサーバープレーヤーの組み合わせはサポートされていません (LSMVIA-5049)。
- LSM-VIAに表示されるプレイリストの再生時間は、Mix-on-1チャンネルがOFFに設定されている場合、必ずしも正確ではありません。
XT-VIAサーバー (LSMVIA-5589)上で。
- > LIVEから100%離れた場所でレコーダーを再生すると、LSM-VIAに表示されるLive OSDの遅延が発生します。
MultiViewerが安定せず、常にちらつく (LSMVIA-16724)。
- ローカル EVS サーバーでクリップが作成されると、残りの容量 OSD が LSM-VIA に表示されます
ローカルレコーダー用のマルチビューアーが適切に更新されていません (LSMVIA-14671)。
- 編集モードで読み込まれたプレイリスト内をジョギングすると、LSM-VIA MultiViewer に表示されるプレイリストの残り時間 OSD は動的に更新されず、常にプレイリストの合計時間が表示されます (LSMVIA-16263)。
- オーディオ分割を含むプレイリストを再生しているときに、オペレーターが LSM-VIA リモートレバーを使用して再生速度を更新しようとし、オーディオ分割のために EVS サーバーによってコマンドが拒否された場合、LSM-VIA マルチビューア OSD に表示される再生速度が正しくなくなります (LSMVIA-17763)。



オペレーターが XClient-VIA ユニットのミニジャックポートを介して LSM-VIA MultiViewer アプリケーションからのオーディオを監視する場合、一部のヘッドセットではサウンド システムのバランスが正しくない場合があります。一方、他の機器 (LSMVIA-17464、LSMVIA-17698) では正しくなる場合があります。

制御対象のプレーヤーにプレイリストがロードされている状態でマルチレビューモードを有効にすると、EVS Server MultiViewer の PRV OSD に影響があり、プレイリスト情報が正しく表示されなくなります (LSMVIA-15148)。

- > -VIAはIPDirectorのABRoll機能と互換性がありません。
- > LSM-VIA は、レコードトレインをプレイリスト項目として含む IPDirector プレイリストをサポートしていません。LSM-VIA は
このようなプレイリストをアクティブなシーケンスとして許可することはできますが、このようなプレイリスト項目を編集することはできません。
- > タイムライン機能はまだサポートされていません。LSM-VIAで制御されるプレーヤーチャンネル上でIPEditからタイムラインを読み込むようなコラボレーションワークフローもサポートされていません。このようなワークフローを実行すると、LSM-VIAの動作が低下します。

- > LSM-VIA は、XClient-VIA と VIA-

Xsquareユニットは、それぞれ異なるPCのLANネットワーク上に設置されています。

LSM-VIA Web設定のキーワードファイルエディタのコピー/ペースト機能は、ローカルホスト（オペレーターがローカルのLSM-VIAワークステーションでキーワードファイルを編集する場合）でのみ利用可能です。本番ネットワーク（ST-489）上の別のワークステーションのLSM-VIA設定にアクセスする場合、キーワードファイルエディタ内でのコピー/ペーストは機能しません。

- > Firefox ブラウザで LSM-VIA 設定ページを開くとき、Firefox のバージョンが 60.x 以前の場合、一部のドロップダウンメニューが機能しない、または誤動作する可能性があります（LSMVIA-9490）。

- > パネルから設定インターフェースはまだ利用できません。

LSM-VIA 設定で導入されたインポート / エクスポート機能は、LSM-VIA の 2 つのメジャー リリース間で下位互換性 / 上位互換性がありませ 特に、ユーザー定義の LSM-VIA リモート ショートカット、Shotbox コンテンツ、および Trains フィルターのバックアップと復元に関して互換性はありません。

以前のリリースにダウングレードすると、その後 LSM-VIA の設定にアクセスできなくなる場合があります。この問題は、LSM-VIA 1.11 で導入された HTTPS への移行に関連しており、設定 URL が「http://localhost:8080」から「https://localhost:8443」に自動的にリダイレクトされます。回避策として、ブラウザのキャッシュをバイパスするために、キーボードショートカット CTRL+F5 を使用して設定を「ハードリフレッシュ」する必要があります (LSMVIA-16938)。

LSM-VIA 1.8 から LSM-VIA 1.11 以降への直接アップグレードは、LSM-VIA の変更により失敗する可能性があります。

1.11 インストーラーのアイコン管理に関する問題。インストールプロセス中にユーザーが「OS をアップグレードして LSM-VIA をインストールする」を選択した場合、オペレーティングシステムは正常にアップグレードされますが、LSM-VIA アプリケーションはアップグレードされません。

回避策としては、LSM-VIA 1.11以降へのアップグレードを開始する前に、ワークステーションのデスクトップから3つのLSM-VIAアイコンをアンインストール/削除するか、LSM-VIA 1.9または1.10への中間アップグレードを実行してから、LSM-VIA 1.11以降にアップグレードする方法があります (LSMVIA-16927)。

リモート パネルの LSM-VIA バージョンが 1.8 以上の場合にリモート パネルのリカバリを試み、その後 LSM-VIA ワークステーションに接続してもリモート パネルで LSM-VIA をアップデートできない場合は、オペレーティングシステムの手動アップデート 必要になります (LSM-VIA インストール ガイドの「リモート パネル オペレーティングシステムのアップグレード (工場出荷時インストール)」の手順を参照してください)。工場出荷時インストールでは、最新バージョンのオペレーティングシステムが展開され、リモート パネルのリカバリ パーティションも更新されます (LSMVIA-16297)。

- > Hypermotion は LSM-VIA リモート パネルではサポートされていません。このオプションは有効にしないでください。

サーバー側はLSM-VIAと連携します。

LSM-VIA Viewerを表示するためにサポートされている解像度は1920x1080のみです。

オペレーターごとに複数のリモートパネルを持つ機能はまだサポートされていません。各オペレーター彼/彼女自身のXClient-VIA。

- > XClient-VIA の PC LAN アドレスが更新され、その後 LSM-VIA が起動されると、ユーザーはエクスポートおよびフラット化ワークフローの VIA-Xsquare ジョブに関する進行状況通知を受け取らなくなります。

回避策としては、ネットワーク構成の更新後にXClient-VIAを再起動することです (LSMVIA-15455)。

XClient-VIA ユニットの Rocky Linux ISO イメージをインストールして LSM-VIA をアップグレードする場合、LSM-VIA のデスクトップショートカット (ライセンスマネージャ、構成、または LSM-VIA) が正しく動作せず、グレー表示されること あります。動作不良のショートカットをダブルクリックしようとすると、「信頼されていないデスクトップ ファイル」という警告が表示されます。この問題を解決するには、正しく動作しないデスクトップショートカットを右クリックし、「起動を許可」オプションを選択します。この操作は、ISO を新規に展開した後に一度だけ実行すればよく、その後 (再起動または通常の LSM-VIA アップデートの場合) は、デスクトップ アイコンがシステムによって正しく信頼されるようになります (LSMVIA-14668)。



Rocky Linux の新しいバージョンにアップグレードすると、XClient-VIA のデスクトップに LSM-VIA アイコンが重複して表示され、動作が不安定になる場合があります。回避策として、「拡張機能」アプリケーション設定を開き、「デスクトップ アイコン」を無効にして、「デスクトップ アイコン NG (DING)」が有効になっていることを確認してください (LSMVIA-16927)。



互換性

ソフトウェア

- > Multicam 21.3 (およびそれ以降のパッチ)のみに対応
- > XT-VIAのマルチカムLSM、スポットボックス、またはスポーツライトモードに対応
- > XSenseモードのXS-VIAに対応
- > XT-GOのスポーツライトモードに対応
- > VIA-Xsquare 4.14以降のバージョンに対応
- > Cerebrum 2.7以降のバージョンに
- > LSM-VIA Gateway 1.11 (およびそれ以降のパッチ)のみに対応しています。
- > LSM-VIA ISOにはRocky Linux 9.7-1.7が組み込まれています。

ハードウェア

- > LSM-VIAはXClient-VIAハードウェアにインストールできます。
- > LSM-VIA は、PMZ または同様のハードウェア上に仮想マシンとしてデプロイできます。LSM-VIA マルチビューアとMultiReviewの高度なモードは、仮想マシン上でも適切にサポートされています。

配備

集中インストーラーツールを使用して複数のユニットに LSM-VIA を展開する場合でも、新しいバージョンの展開を開始する前に、XClient-VIA ユニット上で LSM-VIA アプリケーションを適切にシャットダウンする必要があります。

LSM-VIA 1.12から以前のバージョンに グレードすると、「インフラストラクチャ」設定を含むLSM-VIAの設定全体が消去されます。LSM-VIA設定のインポート/エクスポート機能は、この問題の回避策として使用できません。

LSM-VIA RemoteとXClient-VIA HWは常に同じ場所に設置する必要があり、分散アーキテクチャにデプロイされます。

- o 2つのハードウェア間の往復時間 (RTT)は最大20msである必要があります。

LSM-VIAワークステーションが仮想化されている場合でも、LSM-VIAリモートと仮想マシン間の遅延は20msを超えてはなりません。

リモート環境 (LSM-VIAとXTサーバーが異なる場所に設置されている場合)では、XClient-VIAとXTサーバー間の推奨最大往復時間 (RTT)は100msです。レイテンシがこれより長くなると、製品の使いやすさやユーザーエクスペリエンス全体が低下します。

LSM-VIA ソフトウェア MultiViewer に 特定の展開と構成が必要です。このツールが有効になると、XClient-VIA は EVS サーバーからマルチキャストされたプロキシ ストリームを受信し、これらのストリームはスイッチを介して制御ネットワーク (PC LAN)にルーティングする必要があります。LSM-VIAインストールガイドの「ローカル制作のためのLSM-VIAマルチビューア環境のセットアップ」の手順を参照してください。

より詳しい情報については、こちらをご覧ください。

LSM-VIAアプリケーションが正しく動作するように、EVSはEVSサーバー用に定義された各VLANでIGMPスヌーピングが有効になっていることを確認することを推奨します。

LSM-VIA MultiViewerはリモートプロダクションで使用できます。リモートプロダクションにはLSM-VIA Gatewayが必要です。Gateway Serverは、専用のXClient-VIA 1.2または1.3、あるいは専用の仮想マシンにインストールする必要があります。仮想マシンは、リモートプロダクション専用で使用してください。Gatewayのインストール前にLSM-VIA ISOイメージをインストールしておく必要があります。Rocky Linux OSのバージョンは9.6以上である必要があります。詳細については、LSM-VIAインストールガイドの「リモートプロダクション向けマルチキャストゲートウェイソリューションの設定」の手順を参照してください。



EVS放送機器SA

RUE DU BOIS SAINT JEAN 13、B-4102 SERAING、ベルギー

著作権 © 2003-2021 EVS Broadcast Equipment SA.全著作権所有。

本リリースノートは、EVSの事前の書面による同意なしに、全体または一部を複製、転記、保存（データベースまたは検索システムへの保存）、
いかなる言語、コンピュータ言語への翻訳、電子的、機械的、印刷、複写、光学的、手動その他いかなる形式または手段によっても送信することはでき
ません。

すべての製品名およびブランド名は、EVSまたはそれぞれの所有者の登録商標または商標です。

EVS.COM